次世代自動車センター浜松　活動レポート　Vol.243

## ■　デジタルものづくり対応支援事業
## サイバーセキュリティ対策ワークショップ

近年のデジタル化の進展に伴って、外部からのサイバー攻撃による工場の操業停止や個人情報流出などの被害が急増しています。

特に最近では、仕入先の部品メーカーが被害を受けたことにより、大手完成車メーカーの生産が停止するなど、サプライチェーン全体に影響する事例も発生しており、製造業にとってもサイバーセキュリティ対策の強化が急務となっていますが、多くの中小企業では「自社のような規模の企業は大丈夫」「具体的に何をしたらよいのかわからない」などの理由で、対策・対応が遅れています。

次世代自動車センター浜松では、今回、スズキ協力協同組合との共催により、サイバー攻撃対応の机上演習やサイバーセキュリティＢＣＰの模擬策定演習を内容として、当センターの仲元技術コーディネーターが講師となり、「サイバー攻撃が発生した場合にどのような対応を迫られるか」や「サイバー攻撃の被害の低減や復旧の迅速化のための対策の立て方」などについて、参加企業の皆様が自ら考えながら学ぶ「サイバーセキュリティ対策ワークショップ」を開催しました。

■日　時　：　令和６年６月６日（木）13 時 30 分～16 時 20 分
■場　所　：　浜松商工会議所会館 10 階会議室
■参加者　：　１２社／２４名

＜開会・挨拶＞

＜ワーク１：サイバー攻撃対応の机上演習＞

＜ワーク２：サイバーセキュリティＢＣＰの模擬策定演習＞

＜質疑＞

＜総括＞

【参加者の声】

（全体）
・演習を通じて″困る″、″分からない″ということを自覚することができ、危機感が増した。
・ＢＣＰについては一応立ててはいるものの、真に役立つレベルの磨き上げの必要性を再認識させていただけた。
・経営管理の視点から考えることができた。
・ケーススタディやＢＣＰ策定で、自社が何ができていて何ができていないか分かりやすかった。
・イメージとして非常に理解しやすかった。

（ワーク１）
・模擬体験することで、初動対応が重要であることに再認識できた。
・分かりやすい内容だった。
・ケーススタディはリアリティがあり、再確認に有用であった。
・時間とのたたかいになると思うので、迅速に対応できる仕組み作りが必要と感じた。
・ケーススタディとして、自社に置き替えて考えることができる。
・一般的な講座よりも、得られたものが多かった。
・初めての模擬体験だったが、実際の事例も含め分かりやすかった。
・要点、必要な項目のみ抜粋されており、非常に良かった。
・自社の問題点が洗い出せた。
・短時間のため、臨場感をもち進めることができた。
・他社との話し合いができる進め方は良かった。
・時間がない中で素早く判断することの難しさが体感できた。

（ワーク２）
・考え方、組み立て方（策定手順）が参考になった。
・改めてシステムの重要性を確認できた。
・被害を想定した対策が遅れているので検討していく。
・基本的な内容が分かった。
・やらなければならないこと、内容を理解できた。
・いちばん優先度が高いものは考えたことがあったが、改めて代替機が動くか、セキュリティとしての優先順位を考えることができた。
・あらかじめ重要システムの評価が必要と理解した。
・ＢＣＰにサイバーセキュリティを盛り込む必要性を感じた。
・システム担当者と意見を交換することができ、経営的な目線と担当者の目線の違いを理解できた。
・自社の弱点も洗い出せた。
・演習を通じて自社も対策を進めないといけないと思った。